

青森県立五所川原農林高等学校

6次産業研究室

高校生ボランティア・アワード2023

1 貧困をなくそう

11 住み続けられるまちづくりを

12 つくる責任 つかう責任



【活動テーマ】
農業高校フードバンク
～子育て世帯に
農産物と食育体験を届けます～

(1) 持続可能なフードバンクにするため、農業の6次産業化に挑戦します。

私たちは果樹・野菜・作物という授業で、様々な農産物を栽培しています。**農産物の生育は天候に左右されるため、かたちや大きさが出荷基準に合わないもの(以下、未利用資源の農産物)が必ず発生します。**旬の時期で味がおいしくても廃棄されるという実情があるのです。そこで、私たちの先輩は2021年から**未利用資源の農産物を地域の「子ども食堂」に届ける活動**をはじめました。この活動は農業高校フードバンクとして活動4年目に突入しました。

しかし、本校では冬から春にかけて収穫するものを栽培しておらず、未利用農産物が発生しません。そのような時期でも地域の子育て世帯は子ども食堂を利用します。

そこで私たちは未利用資源の「りんご」に注目し、授業で学んだ**農業の6次産業化(第1次産業×第2次産業×第3次産業)**に2022年から挑戦することになりました。具体的には、りんごの加工品を地域企業と連携して開発し、販売まで取り組みます。そして売上を使い、冬から春にかけて地域の農家・小売店から農産物を仕入れるという取組に発展させることにしました。

(2) 未利用資源の農産物と食育体験を提供する農業高校フードバンクを運営します。

私たちは**未利用資源の農産物**に加え、津軽地域の栽培体験を「**食育活動**」と位置付けて**子育て世帯に提供**しています。これは弘前大学大学院で学んだ「子どもの貧困」で、7人に1人の子どもが相対的な貧困状態にあり、豊かな体験活動の機会が不足しているということを知ったことから取組を始めました。



【私たちの志】
農力は無限大!!
地域を巻き込んで
子どもと親の**笑顔を引き出したい!**

(1) 日本の「見えない貧困」

日本にも貧困問題はあります。それは「相対的な貧困」といわれ、厚生労働省は日本の「**子どもの貧困率**」(17歳以下)を**13.5%**と発表しています。つまり、**7人に1人が貧困状態にある**のです。

ここで起きる問題は、**栄養バランスを整った食事がとれないこと、豊かな体験の機会が不足すること**です。そこで私たちは未利用資源の農産物提供はもちろん、**津軽地域の栽培活動体験を「食育活動」と定義**し直して、高校生による子育て世帯向けの栽培体験会を年3回設けることにしました。これは**地域の子ども食堂「憩いの広場こまる」に協力**いただき、実施することができています。



(2) 農業高校フードバンクの強み

私たちの強みは「冷蔵保管」ができることです。多くのフードバンクは保管場所不足に悩んでおり、生鮮物の寄付を受け取れない活動団体もあります。

そこで私たちは青森県農林水産部の事業(右図参照)に参画し、**日本初となる自治体公認の農業高校フードバンクとして活動**しています。これからも保管と提供を続けます。

あおもりみんなの食堂と農林水産部のネットワーク

未利用食材と、誰かと食事を共にする共食活動をマッチングさせる事業

日本初!自治体公認の農業高校フードバンクとして活動!

引用URL: https://shokudousyokuyoku.jp/



キーワード「地域の子育て応援します!～農の力で地域のウェルビーイング向上を目指そう～」

①持続可能なフードバンク運営のため、農業の6次産業化に挑戦中!

②未利用資源の農産物と食育体験を提供する農業高校フードバンク活動の成果

私たちは通年通して農産物を子ども食堂に提供できるようになるため、**農業の6次産業化で「未利用資源のりんご 350kg」を使って商品開発**に挑戦しました。価格は製造原価にその30%分を含め、そこで得た収益を活動支援金として使います。私たちの活動に共感いただいた**合同会社五代農産加工と有限会社ナカダフーズに協力**いただき、コラボ商品を完成させ、地域内外で販売することができました。

図 価格設定の仕方

「五農の恵み」シリーズ×地域企業

図 価格設定の仕方

製造原価の30% 活動支援金

企業連携で生まれた製造原価

消費者の商品購入が社会貢献に結びつくことを訴える販売戦略

販売価格

図 実際に開発した商品

農業の6次産業化商品① 五農の恵み りんごジュース (100%ストレート) 販売価格 400円/1本

製造原価 約260円/本 活動支援金 約140円/本

本校産未利用りんご 250kg 活動支援金 17,276円確保

農業の6次産業化商品② 五農の恵み すりおろしりんご 販売価格 44円/1個

製造原価 約106円/個 活動支援金 44円/個

本校産未利用りんご 100kg 活動支援金 31,720円確保

連携先: ナカダフーズ

農業の6次産業化商品③ FRESH 農家の「トキ」りんごジュース 販売価格 350円/1本

製造原価 約220円/本 活動支援金 130円/本

本校産未利用りんご 400kg 活動支援金 26,872円確保

連携先: 五代農産加工

私たち①の活動をとおして、**農産物を通年提供**することができる**農業高校フードバンク**に進化しました。冬から春にかけては**地域農家である「合同会社イネ子の畑から」より旬の寒締め野菜を仕入れて提供**するなど、子育て世帯から好評をいただきました。

図 農産物提供実績

月	重量(kg)	提供物
4	6	真空パック米
7	8	ナス、トマト等
8	10	ナス、トマト等
9	20	りんご(つがる)
10	30	りんご(紅玉など)
11	20	りんご(ふじなど)

図 食育体験機会の提供実績

令和4年5月～令和5年5月 地域の子育て世帯 子ども食堂 食育体験実績値 **135人が体験**

【地域の農産物ロスを防ぐために】

私たちの活動をメディアを通して知っていた農家(匿名希望)から連絡があり、**令和5年度青森県豪雨災害で被災した(生食可能な)りんご**でよければ提供したいということでした。**私たちは話し合い、購入することで農家を支援し、同時に商品の原材料として利用**することにしました。

災害名:令和4年度8月 青森県豪雨・台風

被災農家Aさんから未利用資源のトキ提供相談

気象災害による地域の農産物ロスに直面

農産物ロスを見逃さない!

地域農家産未利用資源のりんご 400kg購入

私たちは**345名の子ども食堂利用者**に、合計**176kgの農産物**を提供することができました。

令和4年4月と6月には農産物を提供することができずでしたが、**令和5年からは安定して農産物を提供することができるようになり、好評をいただいています。**

令和5年5月の田植えでは**雨の中の活動になりましたが、みんな笑顔で取り組んでくれました。**



【私たちの夢】
夢は**田畑に子どもと親のたくさんの笑顔**を咲かせること!
青森県農林水産部や青森県社会福祉協議会、地域企業と連携し、**子ども食堂とコラボして食育体験・農産物支援を継続**します!

今後の課題は、活動の継続と地域支援の拡大です。私たちは農業高校フードバンク活動を充実させるため、青森県社会福祉協議会が運営する「あおもりフードバンク」との連携を図ります。

青森県社会福祉協議会 あおもりフードバンクに参画

青森県社会福祉協議会 社会福祉士 葛西裕美氏

あおもりフードバンクの目的

子ども 子育て家庭 生活に困窮する方々 福祉サービス利用者

支援を必要とする方々の福祉の充実を図る

食品等提供者 × 青森県社協 × 中間支援組織

支援機関や市民活動、企業・団体の連携や協働による さまざまなネットワーク推進

住民相互の身近な地域での 継続的な 福祉コミュニティづくり

中間支援組織として登録し、地域支援の輪の拡大に挑戦

私たちの活動はこれからも続きます。**今後は県内に加え、全国で活動している高校生団体の子ども食堂などにも支援したいと考えています。**みなさんも農業高校フードバンクを利用してみませんか?

【共食活動でコラボしませんか】
誰かと食事を共にする**共食活動**に取り組み**高校生団体のみなさんを募集**します!
私たちの学校で生まれた**未利用農産物(主にりんご)**を子ども食堂などで**使ってみませんか?今回をご縁に交流できたらうれしいです。**
ご相談はこちらまで!

ご相談はこちらまで!

(締切 2023年 8月31日まで)



青森県立五所川原農林高等学校 6次産業研究室プロフィール

本校は明治35年に北津軽郡立農学校として設立され、昭和23年に青森県立五所川原農林高等学校となった。昭和47年には、文部省よりA型自営者養成農業高校(現在は経営者養成農業高校と名称が変更)に指定され、昭和49年に大規模農業のスペシャリスト育成のために、現在の地に移転した。近年の成果では、2015年に本校の果樹園が「GLOBAL G.A.P. 認証」(農業に関する国際水準の認証制度)を日本の農業高校として初めて取得し、その取組が全国の農業高校に広がったことが挙げられる。

全校生徒は約300名おり、生物生産科、環境土木科、森林科学科、食品科学科の4学科がある。6次産業研究室は生物生産科2・3年14名で研究活動に取り組んでいる。